



▲現在の五剣山



▲宝永南海地震以前の五剣山の山容
(「四国霊場記」より引用)

背景

南海地震、東南海地震、東海地震の3つの地震が同時に起こった日本史上最大といわれるM8.6の宝永地震の大きさを象徴する^{こんせき}痕跡が香川県内で有名な山に残っています。

それが、私たちが普段見慣れている五剣山で、宝永地震により東の峯が崩れて、今では「四剣山」になっています。今後30年間で高い確率で発生するという東南海・南海地震も、我が国で発生する最大級の地震であり、その地震動による被害は、香川県でもこのような^{じんたい}甚大なものになると想定されています。

アクセス 五剣山

- 琴電志度線六万寺駅より北へ直線距離約2km
- 高松市庵治町・牟礼町
- 緯度経度 北緯34度21分41秒、東経134度08分27秒



香川県高松市牟礼町に空海が唐に渡る前、八つの栗を埋めたことから命名された四国霊場第八十五番札所・八栗寺^{やくりじ}があります。この八栗寺の背面にそびえる山は、もともと五つの峯があることから「五剣山」と名付けられていました。

宝永四年（一七〇七）は天変地異の多い年でした。三月一日には大地震が発生し、七月一日にはほうき星が月を横切りました。八月一二日に大雨、一七、八日は大風雨で洪水、一九日は大風でした。九月一二日は大洪水で、庵治の海岸の堤防が切れ、家が倒れ、田畑が流れました。そして、一〇月四日のことです。旧暦の一〇月は今の十一月頃ですが、それなのにこの日は大変暑く、人々は着物を脱ぎ、笠をかぶって綿を摘んだり、稲を刈ったりしていました。

午後二時頃大地震があり、地鳴りは雷のようで、地は裂け、水が湧きだし、浜辺の砂地は音を立てて揺れました。五剣山の東の端、庵治から左の端に見えていた峯が崩れ落ち、その音は二〇キロメートル余り遠くまで聞こえました。家は倒れ、塀が壊れ、井筒が跳び出しました。その上、二メートルほど津波が押し寄せたので、海岸一帯は潮に洗われました。

地震がいつまでも続き、人々は「また大地震が来る、大津波が来る」と言って、山や藪^{やぶ}の中に小屋をつくって暮らしました。一〇月二三日には富士山が噴火して宝永山ができました。

八栗寺はこの地震で大破し、二年後に全部改築して、ほぼ現在の姿になりました。